

基本目標4 社会参加の意識づくり

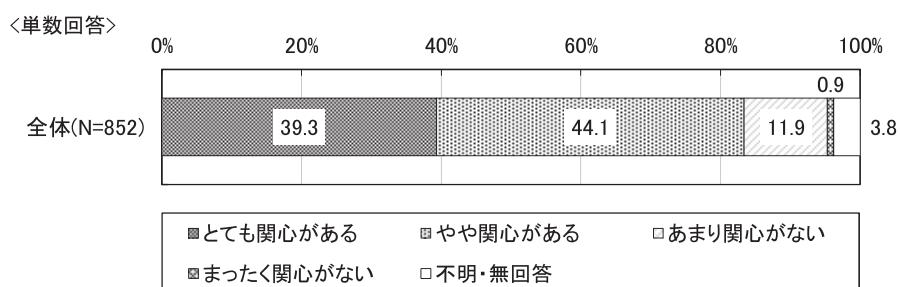
(1) 人権や福祉の制度、地域福祉について学ぶ

住民は福祉に対し、高い関心を持っている

住民アンケート

「福祉」への関心度についてたずねたところ、「とても関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』が83.4%となりました。

問 あなたは「福祉」に関心をお持ちですか

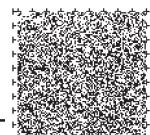
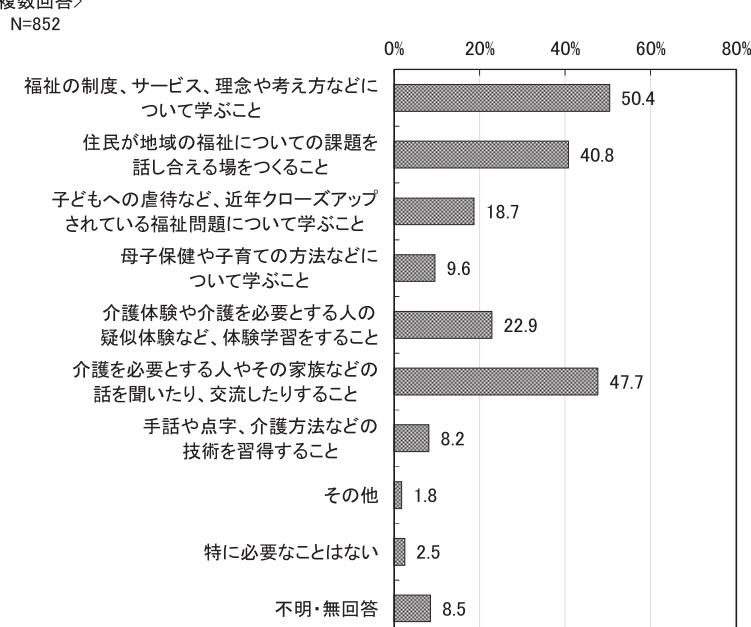


人権や福祉に関する学びの場や機会の充実を図っていくことが大切だ

住民アンケート

住民が福祉に関する理解を深めるために必要な機会についてたずねたところ、「福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと」が50.4%で最も高くなりました。

問 あなたは、住民が福祉について理解を深めるためには、どのような機会が必要だと思いますか 〈複数回答〉

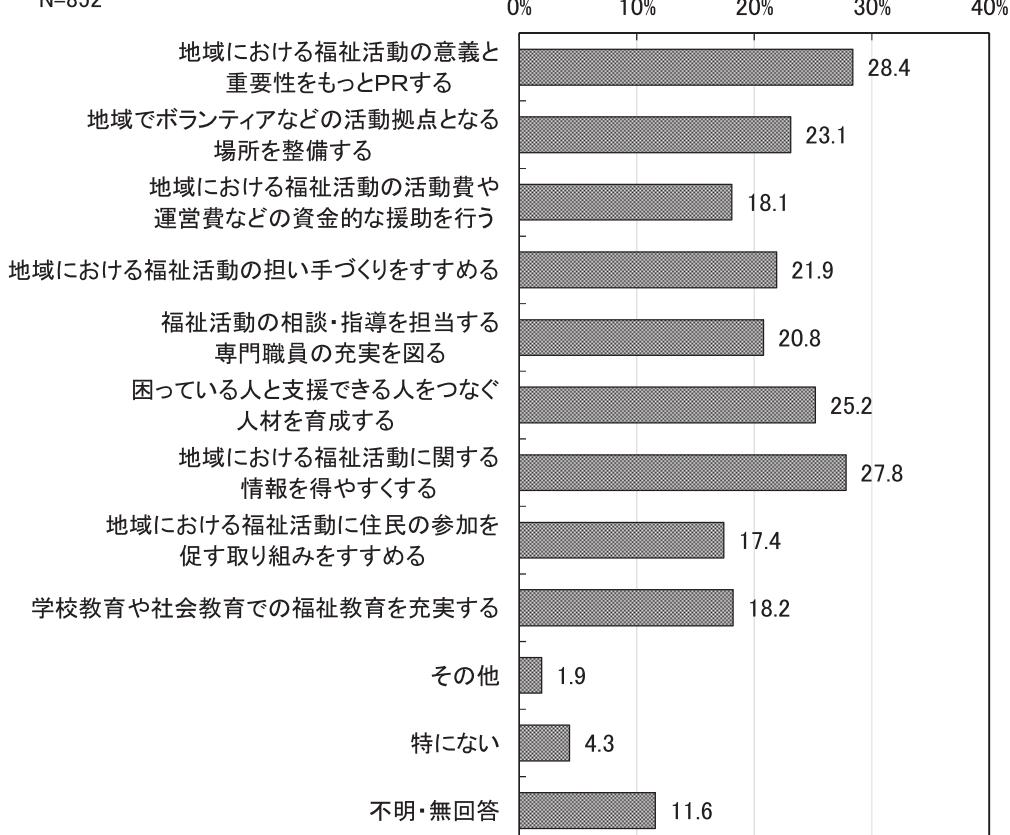


地域における支えあいや助けあいの活動を活発にしていくために重要なことについてたずねたところ、「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が28.4%で最も高くなりました。

問 今後、地域における支え合いや助け合いの活動を活発にしていくことが大切になってきます。そのためには、どのようなことが重要だと思いますか

〈複数回答〉

N=852

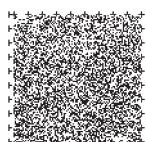


地域福祉ワークショップ

【しうがい者福祉分野】

「昔に比べるとしうがいの特性について、理解を促しやすい状況ではあると思うが、まだまだ理解に乏しいと思うこともある。学校や職場、地域などで交流することができれば偏見もなくなるのではと思う」

多様な特性についての学びと理解



地域福祉ワークショップ

【高齢者福祉・介護分野】

「家族が認知症であることに気が付かない。知っていても対応がわからっていない。親が認知症であることを認めないこともある」

「認知症を家族が恥ずかしいと周囲に隠されることが無いよう、地域での勉強会、情報交換を実施し、地域で見守るための具体的な接し方など学ぶ機会が大事だ」

「自分のやっていることが虐待になるかどうかさえ理解されていない人も多いと思うので、広報や学習会を開くべきだと思う」

【児童福祉・子育て支援分野】

「親は家事や育児の役割分担がないと一人で全部しないといけないのでストレスがたまりやすいと思う」

【しうがい者福祉分野】

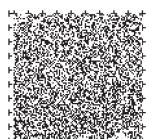
「しうがいを持つ子やそうでない場合でも、育てるときの道しるべになるような情報があれば、悩んだりすることが少なくなるのではと思う。しうがいのことについて勉強出来るよう、行政が先生を呼んでいただければと思う」

【生活困窮者支援分野】

「日々の生活費のやりくりで大変なので、高校や大学への進学となると学費の心配が出てくる。進学をあきらめずに済むように就学給付金や奨学金に関する制度の充実や、それらの制度の説明会をきちんとしていくことが大事だ」

認知症・しうがい等について学ぶ機会

学ぶ機会の支援と周知



(2) 気軽に参加できる交流の場を広めていく

サロンなど、地域でのよりよい交流の場や機会の充実の工夫が求められている

地域福祉ワークショップ

【分野共通】

「常会には行かなくてもサロンには楽しんで行っている。サロン参加者が多く楽しみにしている人が多い」

「子育てをしていても、核家族化や地域住民との関わりの減少など、以前に比べ地域の人や近所の人との関わりが無くなっているように感じる。核家族が多いため、年齢の近い保護者だけでなく様々な年代の人と交流出来る場をつくることが大切だ」

「地域で多世代のサロンができれば、参加して地域の人たちと顔見知りになりたい。小さいうちから子どもが地域の人とふれあうことで、仲間意識と連帯感が生まれる」

「小学生の遊ぶ場所があればいいなと思う。また、おじいちゃんやおばあちゃんと将棋をしたり、交流をしたりする機会があればいいなと思う」

地域で多
世代交流
の場づくり

【高齢者福祉・介護分野】

「サロンは月1回集まっている。来られる人は決まっている。本当にサロンが必要な人は利用ができないのではないかと感じる」

「サロン活動で最初は20名ぐらい参加されていたが、だんだん参加者が高齢になり、公民館まで歩いて来られなくなり、15名に減ったのでそれをどうするかが課題である」

サロン参
加者の固
定化と参
加方法

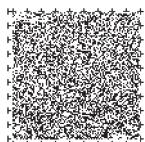
【高齢者福祉・介護分野】

「サロンが何年かでなくなった。自分が次の役員をしなくてはならないなら不安でやめるという理由。後継ぎができないとサロンはなくなってしまう。解散につながる」

「サロンボランティアの後継ぎ不足の問題は、ボランティアに負担が多すぎるのかもしれない」

「サロンというのは、地域福祉の中で非常に重要なものだが、地域福祉は一部の人の努力だけでは長続きしないので、老人クラブ、民生委員、ボランティア、福祉委員、行政区長などすべての人が協力し、連携の中でやっていかないと難しいと思う」

サロン活動
の担い手



【高齢者福祉・介護分野】

「サロンなどに参加できない人、しない人が地域から孤立していくのではないかと心配だ」

「サロンや老人クラブに限らず、公民館行事に行くと女性ばかりで、男性は1割程度である。サロンの男性参加が少ないよう思う」

「老人クラブなど特定の団体が主体で始まったサロンは、その団体に所属していない新たな人を受け入れ難いという難点がある」

サロン参加者への配慮・工夫

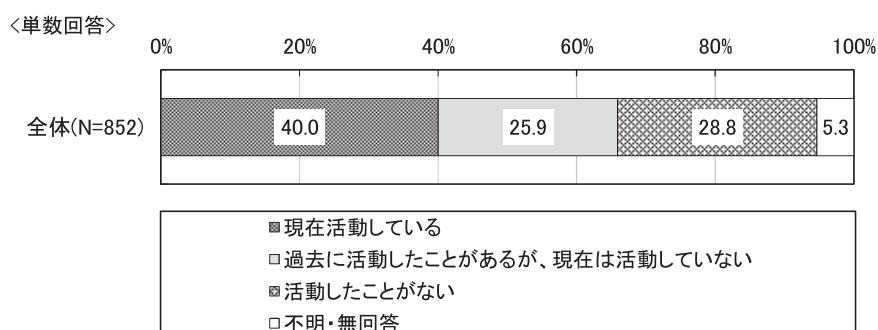
(3) 地域の活動や行事へ参加しやすい工夫をする

何らかの地域活動の経験がある人たちが大半を占めている

住民アンケート

行政区（町内会・自治会など）や子ども会、老人クラブなどの地域活動の経験についてたずねたところ、「現在活動している」と「過去に活動したことがあるが、現在は活動していない」を合わせた『地域活動の経験がある』が65.9%となりました。

問 あなたは現在、行政区（町内会・自治会など）や子ども会、老人クラブの活動など、地域活動をしていますか



地域福祉ワークショップ

【分野共通】

「私のところでは、隣組で年に1回集まってバーベキューをしたり、新年会をしたり、毎月貯金をして3年に1回旅行をしたりしている。隣組は一番大事なので、それだけはずっと続けて11年くらいになる。周りの組も真似し始めた」

「常会は、毎月実施がほとんど。集金日を決め月1回集まっている」

「昔から20日会と言う集まりがあり、地域の70歳代の女性グループで食事を作り会食のお世話をされ、現在も継続して実施されている」

地域活動を続けるために



少子高齢化で地域での活動や行事を継続していくことが難しくなってきた

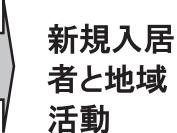
地域福祉ワークショップ

【分野共通】

「お宮掃除など、行政区皆で世話をしているが、その住民が氏子とは限らない。今はアパートや借家がないので、そのシステムが維持できているが、今後どうなるかわからない」

「子どもたちの数は市内でも多いのに、アパート・マンション住まいの親子が増えてきて、町内によっては地域行事に参加されない家族も増えている」

「集合住宅が増えているところは人口も増えているが、隣組に属さない人がどんどん増えてきて殺伐としている。町内の行事には一切参加しないという人、赤ちゃん訪問で何度も連絡しても返事がないという状況などが、だんだん増えてきている」



新規入居者と地域活動

【分野共通】

「少子化が進み子どもの数も減り、自分の地区では子ども会の活動はクリスマス会だけ。子ども会の活動に限界を感じる」

「地域の行事（ほっけんぎょうなど）を継続しているし、皆に集まっていただける内容の行事を実施しているが、参加する人は限られている」

「願立てや願成就などの村祭りを行っているが、地域の高齢化が進み、準備のしめ縄作りに苦労している。転出している人たちに呼びかけ帰省してもらう。しめ縄を購入した地域もあった」

「地域間の連携はとれているが高齢化している。若い人が少なく行事に主に参加するのは高齢者。若い人に伝統を伝えていかなければ途絶えてしまう」



高齢者で支える地域活動

【高齢者福祉・介護分野】

「隣組で村祭りがそれぞれにあっていたが、合併して行うようにした。高齢者同士の交流会はあるが、高齢で参加できない人も増えた」

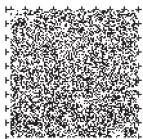
「老人クラブは世話をする人がおらず、加入する人も少なくなつており、衰退しつつある」

【しょうがい者福祉分野】

「しょうがいの当事者の集まりは新しい会員さんがたまに入られるくらいで、亡くなる人も多く、会員は減っている。会員になってもならない待遇は変わらないし、入ったら世話人をやらないといけないから入らないという意見もある」



活動の閉塞感



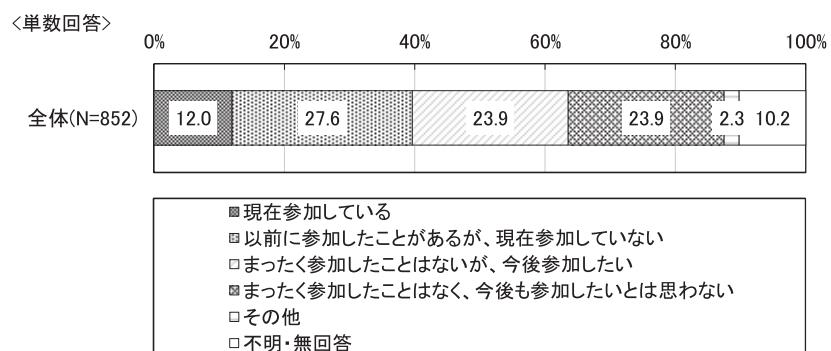
(4) ボランティア活動に参加しやすくする

多様なライフスタイルを尊重したボランティア活動への参加の促しの工夫が大切だ

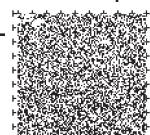
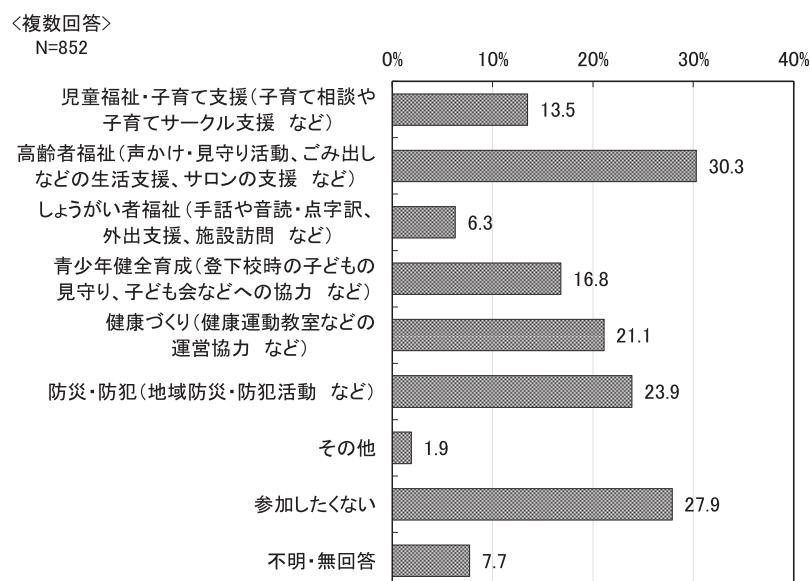
住民アンケート

個人的なボランティア活動への参加経験についてたずねたところ、「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」が27.6%で最も高くなりました。また、福祉に関わる地域活動やボランティア活動への参加意向についてたずねたところ、「高齢者福祉（声かけ・見守り活動、ごみ出しなどの生活支援、サロンの支援など）」が30.3%で最も高く、次いで「参加したくない」が27.9%となりました。

問 あなたは、個人的にボランティア活動に参加したことがありますか



問 あなたは、今後、次のような福祉に関わる地域活動やボランティア活動などに参加したいと思いますか



地域福祉ワークショップ

【分野共通】

「ボランティアというのは、今の自分が出来ることをすればいいのだが、皆さん考えすぎだから難しくなると思う。最初の一歩を踏み込めると、人との関わりもあるし、楽しさや面白さがあるので、最初の一歩が大事である」

「ボランティアの人員がなかなか増えない。今は用事があっても休めないので、もう少し仲間が増えたらと思う。サロンも地域行事もみんな同じメンバーになっている。若い人のボランティアをつくらないといけないと思うが、それも難しい」

支え手に
なる最初
の一歩

